

きつ音とともに

《小学生の部 金賞》

戸坂小学校五年 古川 冬真

ぼくには、きつ音があります。きつ音には三つのしゅ類があり、つまり、のばす、くりかえすがあります。

年長のころから、つまり、くりかえすがでるようになりました。

二年のころから目立つようになり、最初はりよう育センター、三年生の中からきつ音教室に通うようになりました。三年生のころは、きつ音なんてどっかいっちゃえと思っていたのがきつ音のことを教わっているうちに、あまり気にしなくなってきました。その理由は、みんなから支えられているんだと感じたことがあったからです。きつ音のことを知らないクラスメイトがしゃべり方をからかってきたことがあります。でもきつ音のことを知ってる友達に、説明してくれたことがありました。今では、きつ音のことだからかってくる友達はいません。みんながきつ音のことを理解してくれているからです。

きつ音は、病気ではありません。自分の個性としてこれからきつ音と向かいあつてきつ音とともに成長して学んでいきたいです。

みんなちがつてみんないい

《小学生の部 銀賞》

高南小学校六年 埤 花凜

私が思う自分らしさは自分自身を認めてあげることだと思っています。

私は歌を歌うのが大好きです。でも、音楽の時間では、「笑われてしまうのではないか」と不安になり、声が出せません。友達が、

「歌うのいやじゃない？私大きらい。」

そう言ってきた、私も「わかる。」と言ってしまった。今でも後悔しています。そんなとき、ある歌に出会いました。その歌にある、「世界中さがしても君は君しかないよ。」この歌詞を聞いて、自分が唯一無二の存在で、もしおかしな声だったとしても一つしかない自分をほこりに思っただけのように思いました。同じ色と同じように混ぜても、一人一人色は少しずつちがいます。それと同じで、好きなものを混ぜていけば、みんなみんなちがいます。そして、誰でもない自分だけの色をみんな持っています。私にとって幸せは歌を歌っていると。つまり自分らしさ＝幸せに生きることなのです。

これから私の色を認めて、私の自分の色をどんどん作っていききたいです。

なりたいわたし

《小学生の部 銅賞》

安西小学校一年 新藤 風生

わたしは、じぶんらしいとはなにかよくわかりません。でもいつもやりたいことがたくさんあつて、ぜんぶぜんりよくでがんばります。それがとてもたのしいです。わたしのやりたいことを、かぞくはみんなおうえんしてくれれます。おうえんはわたしをげんきにしてくれて、それはパワーになります。だからわたしはもっとがんばれます。がんばることをたのしみながら、みんなのこともおうえんできるひとになりたいです。そしてそれがわたしらしきになったらうれしいです。

世界平和

《小学生の部 銅賞》

千田小学校五年 中島 梨乃

自分らしく幸せに生きるとはどういうことなのだろうか。それは、自分と人とのちがいを
知り、認め合うことだと考えた。

私は幼い頃から人よりも背が高かった。そのことについて深く考えたことはなかったが、あ
る時クラスの男子に背が高いことからかわれ、はずかしいと感ずることがあった。ふつう
の背だったらよかったのにと思った。でもしばらくしてその思いは少しずつ変わっていった。
なぜならば背が高いことで人の役に立てることがあったと思ひ出したからだ。背が高いので、
上の方にあるものを取り取ることができ、先生に私だけお手伝いをたのまれてうれしかったし、
ほこらしかった。

そして何より私の親は私のことをとても大切にしてくれる。それは私が私らしくいていい
のだと感ずることができ。苦手なこともあるがそれも自分らしさだと思ひ、私は今の私を
大切にしたい。そしてそれと同じくらい人のことも大切にする。そうすればきっとその人も
自分と周りの人を大切にし、その連さでやがて世界は平和になるのだ。

ファッションで自分らしく生きること

《小学生の部 入選》

袋町小学校二年 児童

わたしがしあわせをかんじるときは、ミシンをつかっておようふくや小ものをつくつているときです。なぜなら、お店で買ったふくはデザインや色やそざいがきまっています、

「ふくの形はすきだけど、もようとレースがわたしにはあまりにあわないな。」

と思うときがあります。でも、自分でつくれば自分のすきなきじや糸をえらんで、自分のこのみにピッタリのおようふくをじゆうにつくることができるからです。

わたしのしょうらいのゆめは、ファッションデザイナーとソーイングデザイナーになることです。りゆうは、その人らしさがひきたつような、その人がすきであうような、すてきなおようふくをつくりたいからです。

ファッションを通して、ひとりひとりが自分のすきなことをひょうげんできるとうれいす。なぜなら、そういう人がふえると、まちじゆうでファッションショーをしているみたいでたのしいし、それぞれのすきなことをみとめあえるからです。そうすると、みんななかよく、しあわせになれると思います。

大好きなバスケット

《小学生の部 入選》

宇品小学校三年 大瀬 知穂

「シュパッ」っと音をたてて、ボールがリングに入る時、わたしは、とても幸せな気持ちになります。

わたしは三年生になって、ミニバスをはじめました。バスケットはたくさん走るし、しんどいこともあるけれど、できなかったことが、れん習をして、できるようになった時にはとてもうれしいです。さい近では、家でもハンドリングのれん習をがんばっています。

そして、バスケットはチームで行うスポーツなので、仲間といっしょにきょう力してれん習する所も好きです。一人ではむずかしいことも、仲間と教え合って、くじけそうな時に、はげまし合うことができます。

わたしは大きくなったら、バスケットのせんしゅか、バスケットのコーチになりたいと思います。自分の大好きなバスケットをもっと上手にできるようにになりたいし、大好きなことをみんなにつたえて、幸せを分けたいからです。

大好きだと自信を持って言えるものと出会えてよかったです。

わたしらしさ

《小学生の部 入選》

青崎小学校四年 岡原 由依

わたしは、絵をかくのがとくいで、運動がにがて。わたしは、ぬいぐるみが好きで、かたづけがにがて。ネコが好きで、鳥がにがて。イチゴ大福が好きで、ラーメンがにがて。好きなこと、もの、にがてなこと、ものは、全部、わたしらしさ。しょうらいのゆめは、ほごねこボランテアと、イラストレーターになること。それも、わたしらしさ。好き、きらいと、しょうらいのゆめとか、全く同じ人なんていない。わたしらしさだから、もしいても、せいべつは、ちがう。せいかくもちがう。名前もちがう。きつとそう。だから、世かいに一人だけのわたし、世かいに、一人だけの友だち。世かいに一つだけの家族。みんな一人一人、わたしらしさ、ぼくらしさ、がある。動物だって同じしゅるい、同じ色もある。でも、人間みたいに、せいかくがある。せいべつがある。これは、動物も人間も同じでわたしらしさ。みんなみんな、わたしらしさがある。わたしらしさがいない人なんていない。好ききらいがあるから幸せ。わたしは、わたしらしさをたくさんもっているんだよ。

一人一人のえがおのために

《小学生の部 入選》

青崎小学校四年 宮崎 紬

世界には色んな、一人一人ちがう人がたくさんいます。でも、今世界にいる全員がわらって、幸せだとは思っていません。たとえば、好きなことで、えがおになれていない人もたくさんいると思います。わたしは、絵をかくのが大好きです。でも、クラスには絵をかくのが苦手な人や他のことが好きな人がいます。なので、わたしは自分と同じ好きなことがある人、他のことが好きな人もみとめてあげて、いっしょにその遊びや行動をいっしょに楽しめたらいいなと思います。あと、好きなことだけではなく、しょうらいのゆめも同じことです。わたしは絵本作家さんになりたいのですが、わたしとちがうゆめの人もたくさんいます。サッカー選手になりたい子やほいくしになりたい子もいます。これも一人一人ちがうからおもしろくて、楽しいのです。だから、一人一人の好きなことを大切にしていきたいし、自分たちが幸せでえがおになれるみらいをつくりたいです。そして、まわりの人の幸せをまもって、いけるようにど力したいです。

幸せを運ぶヘルパーさん

《小学生の部 入選》

向洋新町小学校四年 宇都宮 あさひ

私は、「自分らしく幸せに生きること」について今まで考えたことがありませんでした。「幸せに生きること」というのはそうぞうしやすいけれど、「自分らしく」というのが、少しむずかしく感じました。

私は私のおじいちゃんとおばあちゃんが大好きです。近くに住んでいるから、よく会っているのに、すぐく会いたくなる時があります。私に会うと、いつも笑顔でだしめてくれます。私はその時、とても幸せな気持ちでむねがいっぱいになります。

私の将来の夢は、お年寄りの役に立てるヘルパーさんになることです。たくさんのお話をし、相手の気持ちが理解できる人になりたいです。私が私のおじいちゃんやおばあちゃんからもらった幸せな気持ちを今度は私がみんなに幸せを運ぶヘルパーさんになってお返ししたいです。

私にとっての「自分らしく生きること」は、将来の夢に向かって家族や周りの人を大切にしてくださいことです。それが私にとっての「自分らしく幸せに生きること」だと思います。

人のいいところを見つけると

《小学生の部 入選》

安小学校四年 洞木 ひな子

わたしは、自分らしく幸せに生きるためには、「人のいいところを見つける。」ということが、とても大切だな。と思いました。

理由は、人のいいところを言うと、いいところを言われた相手も、いいところを言った自分もうれしくなるからです。

わたしは、四年生になって初めてリレーせんしゅに、選ばれました。家族や友達、いろんな人にすごいね。とほめられました。そして運動会当日、わたしはおもいきり力いっぱい走りきって、わたしのチームは二いになりました。そして家族や友達に、いろいろな言葉を聞きました。「すごかったね。おしかった!!次もがんばってね。」と言うはげましの言葉を聞きました。そして、わたしは、次もがんばろうという気持ちになりました。それからわたしは、「すごいね。」や「こが、いいね。」と言うはげましの言葉や、人のいいところを言う相手もうれしくなるということが分かったのです。

だから、人のいいところを言ったり見つけたりすることはとても大切だと思います。

自分らしく幸せに生きる

《小学生の部 入選》

矢野小学校四年 新里 友香

はじめに、わたしは、自分がどんな時に幸せと感じるか考えてみました。それは家族と美味しいものを食べたり、買い物をする時や友達と遊んでいる時や何かを作る時です。そこから、「自分らしく幸せに生きる」とは、わたしにとつては、「自分の好きなことを好きな人達と一しょに楽しみながら生きていくこと」だと思いました。

わたしは、しよう来「パティシエ」か「建ちく家」になりたいです。理由は、自分の好きな「作ること、デザインすること」をして、お客さんやいろんな人によるこんでもらいたいからです。やりたいこと、好きなことを仕事にすることは、「自分らしく幸せに生きる」ためにとっても大切なことだと思います。

そのために今は、いろんな物を見たり、やったことないことにもちょうせんして好きなことややりたいことを見つけることが大切だと思います。そして、好きなことややりたいことが見つかった時にかなえられる自分であるために学校でしっかり勉強しようと思います。

自分の気持ちを伝え分かり合う

《小学生の部 入選》

千田小学校五年 森 美波

私が考える自分らしさは「ありのまま」で過ごすことだと思います。自分から気持ちを家族や友達に伝えて自分の事をわかってもらいたいからです。コロナがはやった年に小学校へ入学し、すぐに休校になりました。友達を作ることもできなくてさみしい気持ちになりました。そんな毎日も当たり前になってきて登校するようになってもマスクが当たり前で、相手の表情が分からないままでした。だけど、今になって、マスクを外せる解放感と同時に友達とも少しずつ、コミュニケーションもとれるようになりました。コロナが始まって悪いことばかりではないと思いました。マスクをつけたことによつて、相手の表情を読みとる力がついたと思います。

私は友達とけんかをした時、けんかが終わらない気がして気持ちをおさえてあやまった事があります。だけど、自分の気持ちを伝えた上であやまる事と、伝えずあやまる事はちがうと感じました。私が考える「幸せに生きていける社会」とは自分の気持ちを伝えて、思いやりを持って分かり合う事だと思います。

自分でできること

《小学生の部 入選》

戸坂小学校五年 大岡 唯刀

ぼくは、わすれっぽいところがきらいです。授業のときも、必要な道具を持っていくことを忘れてしまい、勉強ができなくて困ることがあります。そんなとき、ぼくのまわりの人は、すぐにかしてくれたり、教えてくれたりします。担任の先生が道具や教科書を持ってきてくれることもあります。そんなみんなのやさしさにぼくはかんしゃしています。なので、何かおん返しがしたいと思って、手助けしたいと思っています。でもなかなか勇気がでません。しかし、ぼくはひまわり学級では、六名の中で一番学年が高いので、みんなに色々なことを教えています。みんなが言うことをきかなくて大変なときもあるけれど、高学年としてほこりをもって、見本になる人になりたいと思います。

これから自分のできることをみつけて、がんばりたいです。

一一二つの自分らしさ

《小学生の部 入選》

向洋新町小学校五年 桂 優花

自分が自分らしくしあわせに生きたいのならば、まず、いろいろな自分を知ることからはじめたら良いと思います。「自分」にはいくつもの「自分」がいるはずです。例えば、自分では自分のことを優しくて負けずらいだと思っけていても、友達からすると、怒りっぽくて、あきらめがはやいと思われてるかもしれません。他にも、家族、先生、はじめましての人たちからも、それぞれ自分がどう思われてるかなんて、きつとバラバラなはず。

私も前までどれが本当の自分らしきなんだろうと思っけていました。けれど、ある日、本を読んていると、「たくさんの人からみた、あなたらしき。その一つ一つはあなたらしきの一部。全部があなたらしきなんです。」と書いてありました。私は、その言葉が心にとてもひびきました。

だから、まずはいろいろな人に自分はどんな人か聞いて、その中から自分がのびしたい自分らしさをみつけましょう。そうしたら、のびしたい自分らしさを生かし、自分らしくしあわせに人生を送れるはずです。

みんながっついていい

《小学生の部 入選》

瀬野小学校五年 田中 栄都

自分らしく幸せに生きるには、誰かと比べてばかりではいけません。ぼくには姉がいますが、何かと比べられます。例えば、姉は慎重なのにぼくは大胆だ、とか、姉は真面目なのにぼくはいつも気楽だ、と比べられると時にぼくはいやな気持ちになります。反対に、ぼくはムードメーカーだけど姉はシャイすぎる、とか、ぼくはしゃべりがたんのうだけど姉は口下手だ、と比べられるとやはり姉も時にいやな気持ちになります。そのような時、両親はいつも、

「二人が同じでなくていい。それぞれがっついていい。」

と言います。比べられて自分らしさをかくしたりなくすより、それぞれのちがいを認め合える方が生きやすく幸せだとぼくは思います。

近ごろは、多様性が認められる社会になりつつあります。みんなが同じではなく、みんなちがっついていい、という考え方がこの先もっと広がっていくといいなと思っています。

自分らしい自分

《小学生の部 入選》

八幡小学校五年 堀本 栞那

私は自分らしさは自分のことを大切にすることだと思う。

自分は女の子だけど女の子らしいことが、あまり好きではなかった。だから女の子と仲よくなれるか不安だった。けれどそんな自分をみとめてくれる人がいた。その友だちには自分の自分らしいところを出せもつと仲よくなった。そして友達の友達らしいことを知ってもつと仲よくなった。そして不安もなくなつた。自分の自分らしいこと出してもいいって分つた。そして私はむりに人とあわせなくても自分にあつた友達と遊べばいい。自分を大切にすれば自分らしいままでいられる。この自分らしさがおかしいと言われても、これが自分らしいって自分が一番分つてるから大丈夫。好きなことをして好きな友達と遊んで好きなことをさがして自分らしく生活する。

私は自分らしさを大切にして自分らしいことをたつくさんして成長したい。これが私の自分らしい自分。

「自分」を認めるということ

《小学生の部 入選》

幟町小学校六年 佐々木 結麻

「自分らしさ」を考えた時、私は自分が思う「自分」と人から評価される「自分」が違っていて戸惑うことがある。人からのイメージは嬉しく思うこともあれば、納得いかないこともある。そのことを両親に話すと、

「人からの納得いかない評価も含めて自分の意思でしたことは全部自分なんだと思うよ。」と言われた。私はその時、理想に近づけたい自分も私らしくなくて嫌な自分も全部含めて自分でいいと思えて、少し気が楽になった。

他人に対しての見方もそうかもしれない。場所や状況、気分によって色んな「自分」がいるのだから、相手の一部だけを見て判断するのはやめようと思った。

「自分らしさ」というのは、変化する。自分の良い面も嫌な面も全て素直に認めていくことだ。そうすることできつと、周りに対して優しくなれたり、色んな人の考え方も素直に受け入れることができるようになるのではないかと思う。みんなが幸せに生きていくために、まず、「自分」も「他人」も認めていくことが必要だと思う。

自分の特技を活かす

《小学生の部 入選》

幟町小学校六年 杉田 琉

ぼくは、自分らしく幸せに生きるということは自分の特技を活かすことだと思っています。

ぼくは三才の時からパズルをしていました。アニメのキャラクターのパズルや動物の絵のパズルなどいろいろあった中でも特に好きだったのは日本地図のパズルでした。このパズルは毎日やっていたそうです。そこからぼくは日本地図に興味を持ち地図の絵本や国旗の図かん、首都や国名が書かれているカレンダーなどいろいろ買ってもらい地理が大好きになりました。最近では日本の市町村を全て言えるようになりました。

ぼくはこのような特技をどのようなことをしたら活かせるか考えてみることにしました。すると、知っている地域の情報を使って市民が安全安心に日々をおくることのできる町づくりができるのではないかと思いました。

自分の特技を活かすことでみんなが喜ぶことができれば、自分らしく幸せに生きることにつながると思います。それに向かってこれからも特技を伸ばしていこうと思います。

私達が「自分らしく」生きられる社会の実現
《小学生の部 入選》

吉島小学校六年 田丸 美織

「自分らしく」生きる。それは互いを思いやることで実現するものだと考える。

私は色々な色が好きだけど、お母さんが買ってくる服はなぜかピンクが多い。勿論ピンクも好き。でも「真つピンク、ダサ。」と見ず知らずの子が言ってきた事がある。本当は私に言ったのではないかもしれないが、（えっ？）と思ったのは事実だ。今では笑い話だが、ちよつとした事で傷付く人だったらショックなのではないかと、私は思う。

今は多様性の時代だ、先入観や固定観念を無くそう!!と声高らかに叫ばれているが、この出来事ってどうなんだろうと思う。着る服は自由だし、意見を言うのも自由。しかし、これらの事を多様性でまとめられるのだろうか。自由ではあるけれど、やはり見ず知らずの相手でも優しく言うのが良いのではないか。

今、生きているこの社会では色々な人がいる。傷付きやすい人、傷つきにくい人。沢山の人が関わり合っている社会では大切な事がある。それは互いを思いやる事、一人ひとりが自分らしく輝ける社会の実現のために。

個性を大切にしながら生きる

《小学生の部 入選》

青崎小学校六年 柚川 七海

「自分らしく生きる」とは、一人ひとりの個性を大切にしながら生きることだと思っています。そして、「自分らしさ」とは、自分だけが持っている特別な力のことだと思っています。

私は、小さいころから硬筆を習っています。一人ひとりの顔がちがうように、一人ひとりの字もちがいます。中には「これ、上手？」と思うような人もいますが、それも「個性」なんだと思います。そう考えると、字は「自分らしさ」にもつながっているんだと思いました。

一人ひとりの個性は、その人だけが持っている特別な力のことだと思っています。最近、テレビでよく戦争のニュースを見ますが、その理由の一つは「自分らしさ」を大切に思わないからではないかと思っています。一人ひとりの個性や性格を大切に思う気持ちを持っていれば、戦争はなくなるのではないのでしょうか。

自分らしく幸せに生きるためには、個性やまわりの人も大切にする必要があると思います。この気持ちを大切にしながら、私はこれからの人生を生きていきたいです。

自信は幸せのみなもと

《小学生の部 入選》

翠町小学校六年 児童

「外国人だ」今年地域であつたとんど祭りで小さい女の子に言われた言葉です。今までにも、指をさして私に「変な人」と言つたり、じろじろ見たりする人はたくさんいました。そのたびに、自信をなくしていききました。

私の父は、アメリカ人です。なので、私は顔つきが日本人とはちがいます。でも、アメリカに行つたら、「日本人ぽいね」と言われ、私は何人かが分からなくなっていました。その時に救ってくれたのが、私の祖母でした。

「あなたは、アメリカ人と日本人なのよ。」「あなたはあなたらしく生きていけばいいの。」と言つてくれました。その日から、自信がついていきました。「外国人みたい」と言われても、ひるまずに、前へ進んで行けるようになりました。「自分らしく幸せに生きる」という祖母の言葉が私を救ってくれました。これからは、私みたいに自信をなくしている人がいたら、その子を励まし、助けてあげたいです。そして、「自分らしく幸せに生きて」ほしいです。

自分らしく幸せに

《小学生の部 入選》

井口小学校六年 富田 紗帆

私が思う、自分らしく幸せに生きるということは、自分が好きなことにたくさんはげんで、それを自分にとってのプラスに変えることだと思う。なぜなら、自分が好きなことをすれば、幸せな気持ちになれるはずだし、それをプラスに変えれば自分の人生を良くすることができると思うからだ。

私は、自主勉強のテーマを選ぶことが好きだ。私にしかない自分らしさだと思う。そしてその勉強を知識としてプラスに変えることができるということは自分の人生が少し広がるし、自分の好きなことをプラスに変えることができ、とても大切なことだと感じている。私には、絵本作家になりたいという夢がある。絵本作家は、「自分らしさ」が生かせる職業だ。自分にとってプラスにもなるけれど、その本を読んでくれた人にも様々な思いを届けることができ、自分も、読んでくれた人も、幸せにできるように絵本作家になりたい。

このことから、自分の好きなことにはげんで、それをプラスに変えることで自分らしく楽しく幸せに生きていけると考える。

周りの偏見に囚われないで

《小学生の部 入選》

倉掛小学校六年 三宅 紗世

私が思う、自分らしく幸せに生きるということは、好きなことを周りの偏見にとらわれずにやることです。

私はサッカーを習っています。今は、楽しくサッカーをやっていますが、始める時に、入るか入らないか、すごく悩みました。なぜかというと、「サッカーは男子のスポーツ」という偏見があったからです。周りのサッカーを習っている人もみんな男子だったし、女子が入ったら浮くかな？とかも考えていたからです。私は、そんな気持ちを母親に相談してみました。すると、「周りの偏見に囚われず、好きなことをやればいいじゃん」と言ってもらいました。私は、母親の言葉でサッカーに入ることを決意しました。

このように、好きなことを周りの偏見に囚われずにやることで、自分の楽しい未来が待っていることがわかりました。新しいことをはじめるにも、何をするにも、一度、考えてみることもいいのではないのでしょうか。

「自分らしさ」と「幸せ」

《小学生の部 入選》

石内北小学校六年 菅 ななみ

今回のテーマを深く考えるために、「自分らしさ」と、「幸せ」についてそれぞれ考えてみました。

私が考える「自分らしさ」は、自分の好きなことや好きなもののことだと思っています。

例えば、私は絵をかくことが好きです。特にアニメの人物をマネしてかくことが得意です。好きな絵をかいている時、「自分らしさ」を感じます。

私が「幸せ」に感じる時は、絵が前より上手くかけたり、友達にほめてもらったりした時です。

私は「自分らしさ」を認めてもらうと「幸せ」に感じるようになりました。

このように、「自分らしさ」と「幸せ」はつながっていると思います。

「自分らしく幸せに生きる」ために、これからもっと「自分らしさ」を探していきたいです。自分らしいと思えることが見つかった時は、それを大切にしていきます。私にとって「自分らしさ」を大切にすることが、「幸せ」に生きるということにつながるからです。